

校長式辞掲載

うらかな春の光の中、桜をはじめとする色とりどりの花が咲き誇り、春爛漫のこのよき日に、ご来賓として衆議院議員 藤井 比早之様、PTA会長 山本 昭一様、本校同窓会 蜻蛉会会長 長谷川 雅清様をはじめ、小野市内4中学校の校長先生方など、多くのご臨席を賜り、兵庫県立小野高等学校 第七十八回入学式が、盛大に挙げていただけますことに、深く感謝を申し上げます。

ただいま入学を許可しました、二百六十五名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私たち教職員はもとより、在校生も皆さんの入学を心から嬉しく思っています。合わせて、皆さんには、今日の入学まで支えてくれたご家族、お世話になった中学校の先生など、多くの方々に対する感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。

さて、本校は、江戸時代後期の小野藩の藩校であった「帰正館」を源流として、旧制小野中学校がこの地に設置され、百二十一年の歴史と伝統を持った高等学校です。

校是である「明・浄・直」（あかき・きよき・なおき 誠の心）の精神で、文武両道を貫き、通常の授業だけでなく、探究活動、学校行事、部活動を通して、学校スローガンとして、『世界で突き抜ける「小野高プライド」～次代を拓く人間力を育む～』に取り組んでいます。

また、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けて5年目を迎え、理数の専門性の高い教育課程で探究活動を行う「科学探究科」と、商業や国際経済の学びを発展させ地域における持続可能な社会を視野に入れた探究活動を行う「ビジネス探究科」の2つの特色ある専門学科に加え、伝統ある「普通科」を含めた3学科で、切磋琢磨しながら教育活動を充実させています。

そして、学校教育活動を通じてどのような資質・能力を育成することを目指すのかというグロデュエーションポリシーを昨年に決めました。「次代を拓く‘ON0 Progress’～人間力を育む9つの力～」の実現に取り組んでいます。

今、世の中は大きな変革の時期を迎え、グローバル社会が進展して、インターネットによって全ての人とモノがつながり、AIによって必要な情報が必要な時に提供され、ロボット技術によって人の可能性が広がり、技術や社会の変革、イノベーションによって様々なニーズに対応できる社会が実現する Society 5.0 と言われる時代が訪れています。これからの予測することが困難な激しい変化の時代においても、「未来への道を切り拓く力」を発揮できるように、教職員一同が温かく応援しています。

皆さんは、SNS等が普及し便利な情報化社会において、情報の発信や公開、利用において、他者への権利侵害を起こさない情報モラルを身につけるとともに、多くの情報から何が正しい情報かを読み解いて活用し、そして正しい情報を発信する情報リテラシーを身につけてください。

高校に入学するのが目的ではなく、これからがスタートです。一人ひとりが目指す目標をしっかりと持って、主体的に多くのことに挑戦してください。

皆さんは、「ウサギとカメ」の話を知っていると思います。「カメなりと、たゆまなければウサギ超ゆ」という言葉があります。ウサギはカメに負けるはずがないと油断して気を抜いて負けました。勝てるはずがないと思われたカメであっても、たゆまない努力を忘れなければ、ウサギを超えることができる という意味です。「継続は力なり」を忘れないでください。

また、3年間の間には、辛いことも、諦めようと思うときもあるかもしれません。その時は、「玉磨かざれば光なし 光なければ石瓦たり」という言葉を思い出してください。ここでいう「玉」とは宝石の原石で、可能性を秘めた皆さん一人一人のことです。宝石の原石は磨かなければ光りません。道に落ちている石や瓦のかけらのように大した価値もありません。磨かれて素晴らしい輝きを放ちます。辛く苦しいときは、宝石が磨かれている時だと信じて耐え抜いて欲しいと思います。

皆さん一人ひとりが、たゆまぬ努力をして光輝く高校生活を送ることを心から応援しています。

昨年度までの3年間は、新型コロナウイルス感染症による影響で、本来の教育活動が制限されたり、マスク生活があたりまえの状況でした。今年度からは、学校教育活動ではマスクの着用を求めないことを基本とし、校歌も歌うことができるようになりました。感染対策も取りながら、これまでできなかった行事も、どんどん実施していく予定ですので、楽しみにしてください。

保護者の皆様、本日はお子様のご入学、誠におめでとうございます。お子様がこれからどのように成長していくのか、大きな期待と一抹の不安の両方を抱いておられることかと思えます。

保護者の皆様と連携して、教職員が一丸となって、お子様の成長を支えてまいります。これからの3年間、本校に対するご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

新入生の皆さん一人一人が、自らの目標を大切に、何より楽しい充実した高校生活を送られることを祈念して、式辞といたします。

令和五年四月十日

兵庫県立小野高等学校長 小倉 裕史